

木質ペレットによる新たな農業で地域創生

京都府立北桑田高等学校 3年

久保 颯太

私の父は現在木質ペレットを製造する会社を経営しています。木質ペレットとは、木を粉状にし圧縮して固めたものです。一般的には、ストーブの燃料として使われているのですが、まだ流通量は多くありません。知っている人でも、薪ストーブとの違いを説明できる人は、ほとんどいないと思います。木質ペレットは薪とは違い、木を粉碎して使用するので、今まで捨ててしかなかった端材を利用することができるのです。これにより、木を余すことなく利用できることが可能となり、地球温暖化などの環境問題にも貢献できるのです。

私は、この木質ペレットを使い、新たな可能性にチャレンジしています。現在、日本の農業は世界と比較すると、レベルが低いと位置付けられています。その主たる原因は、農薬の使用量が多いということです。この問題に目をつけた私は、木質ペレットを使い無農薬栽培をしようと考えました。そして、この手法を日本中に広めることができれば、農業レベルの位置付けが上がるだけでなく、衰退している林業も活発になり、森林面積が大きく割合を占める地域、いわゆる田舎が活性化するのではないかと、そう仮定しました。無農薬栽培をするために必要なことは、悪い菌や害虫を寄せ付けない土壌を作る必要があります。そこで土の上に木材腐朽菌を注入した木質ペレットを敷くことで、菌を寄せ付けない土壌を作り出すことができました。この方法を使い、家族で協力して無農薬栽培が一番難しいと言われているイチゴの栽培を試験的に行いました。その結果、イチゴの栽培に成功したのです。この成功から私たちは、地域祭りで木質ペレット農法をPRするブースを設置し、これまでの成果を披露しました。ブースに来てくれたお客さんは、とても興味深そうに私の話を聞いてくれました。みなさん農薬の害を心配したり、無農薬栽培に興味がありましたが、具体的なやり方がわからなくてできなかった方が多く、話をすると、「私もやってみたい。」と話をしてくれた人もいました。やってみたいと思ってくれた人たち、今は、地域の農家の方々に協力を得て、少し規模を広げて試行している現状です。

平安遷都から千二百年、京の都を造営した京北の林業を昔のように活発にさせること、そして、その方法を全国の同じような地域に広めて地域を活性化させることが僕の夢です。そのために、木質ペレットの普及を成功させる、様々なアイデアを試し、木を無駄遣いしない林業の町。そして、木質ペレットを使った農業発祥の地として有名にしたいと思っています。京都市京北にある北桑田高校森林リサーチ科に入学して、私はこのままだと私の生まれ育った京北の森林が廃れていくと思いました。貴重な資源がもったいない。学習を通してそう考えることができました。木の強みを活かして、みんなが豊かになり、幸せに暮らせる町を創るためのプランを考え実行していくべきだと考えます。